

# AP Japanese Language and Culture Program とアーティキュレーション AP Japanese Language and Culture Program and Articulation

當作靖彦(カリフォルニア大学サンディエゴ校)

Yasu-Hiko Tohsaku (University of California at San Diego)

## 1. なぜアーティキュレーションか

アメリカでは 80 年代以降、日本語を教える初中等、高等教育機関が増え、もはや教育機会の少ない外国語とは言えないまでに成長した。教育機関、学習者数、教師数など数の上では勢力の強い言語となったが、教育の質の面ではどうであろうか。私たちのフィールドの質を示す一つの指標は、私たちの作り出す学生の質、すなわち、どれほど日本語が使える学習者を作り出しているかであり、高い日本語能力を持つ学習者を作り出すことは、私たちのフィールドの質を示すだけでなく、私たちが言語教育のプロフェッショナルとして説明責任を果たしているかを示すものでもある。日本語は決してアメリカ人にとって学習がやさしい言語ではないことは明らかであり、高度の能力を獲得するためには、長期にわたり学習する必要がある。2001 年の同時多発テロ以来、アメリカ政府は、アラビア語、中国語、韓国語など、アメリカの安全保障、防衛にとって大切な言語の教育を助成し、初中等、高等教育機関を通じて言語を学習し続け、最終的に母国語話者に近いレベルの能力を持ったアメリカ人を作りだそうとしている。日本語の場合にはこのようなアーティキュレーションのあるプログラムが存在するであろうか。私たちは高度の能力を持った学習者を多数作り出しているだろうか。現在日本語をアメリカで学習している学習者の大多数は初級学習者であり、またその多くが初級を何度も繰り返している所謂、パペチュアル・ビギナーである。この原因の一つは、初中等、高等教育機関の日本語のプログラムでアーティキュレーションが欠如しているためである。また、高度の日本語使用者を作り出すためには、アメリカの日本語教育機関内のアーティキュレーションを達成する必要もあることは言うまでもない。

## 2. AP Japanese Language and Culture Program の役割

2006 年に開始された AP Japanese Language and Culture Program は、高校で AP Japanese Language and Culture Course という大学レベルのクラスを取り、AP Japanese Language and Culture Exam で合格点を取ると、多くの大学に入学する際に単位を取得できたり、上のレベルのクラスにプレースされるか、その両方の権利を得るものである。日本語の場合には、AP Program は大学で 300 時間の日本語の学習を終えたと同等のレベルを基準としており、4つのスキルで、ACTFL の Proficiency Guidelines の Intermediate Low から Mid のレベルを達成することを期待されている。私が教えている University of California, San Diego でも、テスト開始初年度から AP Japanese Language and Culture Program を終えた学生を日本語のプログラムに受け入れている。テストで 3 点以上を取った学生は入学時点で 8 単位を取得できることになっているほか、3 点、4 点、5 点を取った学生はそれぞれ二年生秋学期、二年生冬学期、三年生秋学期(クォーター制)にプレースされている。継承日本語学習者ではない学生でも、このプレースメントで全く問題がないことがこれまでわかっている。

る。この AP Japanese Language and Culture Program を取る学生が増えることにより、高校と大学の間のアーティキュレーションが改善されることが期待される。

### 3. 高校のアーティキュレーションの問題

AP Japanese Language and Culture Program を作る高校が増加してきたことはいいことであることは言うまでもない。12 年生のプログラムを AP Japanese Language and Culture Course にするためには、9 年生のレベル1のクラスから内容を変え、レベル2, レベル3とアーティキュレーションを持って最後のレベルのクラスに問題なく入れるようにする必要がある。AP Japanese Language and Culture Program をデザインするためのワークショップなどは広範に行われているが、いわゆる Pre-AP のクラスのデザインのための教師教育も必要である。AP Japanese Language and Culture Program は National Standards の考えを反映したものであるが、レベル1から National Standards の考えを取り入れたコース・デザインが必要である。2013 年あるいは 2014 年に AP Japanese Language and Culture は改訂される予定であるが、National Standards の考えがさらに強く反映され、主題中心の授業が強調されているが、この方面での教師研修が今後増えるであろう。高校を終える時点で、AP コースに入れる学生を増やすためには、地域の高校の教師と中学校の教師の間のコミュニケーションが活発に行われ、二つのレベルのアーティキュレーションが確立されることも大切である。

スペイン語、フランス語などと異なり、日本語の場合には教師がそれぞれの高校に一人しかいない場合が多く、限られた数のクラスしか出せない場合が多い。このため、レベル4では、AP Japanese Language and Culture のクラスと AP の学生でないクラスを合同で教えている場合も少なくない。このような同一のクラスにレベルが異なる学習者がいるクラスを効果的に教えるために differentiated instruction の知識も必要になる。

### 4. 大学におけるアーティキュレーションの問題

AP Japanese Language and Culture Program を終えた学習者を受け入れる大学側がかかえる問題も多い。アメリカの大学の多くの日本語プログラムでは最初の2年は日本語教育を専門とする講師が教え、後半の2年は文学などを専門とする教授が教えている。この二つの間で言語教育のゴールが異なる場合が多く、同じ大学内でアーティキュレーションがないことが多い。また、初級クラスが多く異なる講師によって教えられている大きな大学では、それぞれの講師の間でのアーティキュレーションがなく、所謂水平的なアーティキュレーションがない場合も多い。これらの場合には、同じ大学のプログラム内でのアーティキュレーションの確立が急務であり、プログラムに参加する者が、講師、教授の壁を乗り越えて、話し合う必要がある。

National Standards は高校以下では運用されているが、大学レベルではその内容について全く知らない教師も多い。AP Japanese Language and Culture Program を通してのアーティキュレーションを達成するためには、大学教師もこの内容を知ることが大切である。

## 5. アーティキュレーションはそれぞれの地域から

全国レベルでアーティキュレーションを達成するのは日本語教育界の大きなゴールではあるが、アメリカの教育制度から考えて、それは非常にむずかしい問題である。アーティキュレーションを達成するには、まず個々の教師が自分の教えているクラスを見直し、その目標とするところは何か、学習者は何ができるようになるのかをはっきりさせるところから始まる。それを近隣の教師と話し合い、まず近隣の機関とのアーティキュレーションを達成することが第一歩である。アーティキュレーションを達成するためには、教師同士のコミュニケーションが不可欠であり、オープンな気持ちで、機関の差を超えてコミュニケーションを行う必要がある。AP Japanese Language and Culture Programはそのための良い道具となるであろう。